

1 尿潜血検査とは？

潜血とは目にははっきり見えないけれど、血液、特に赤血球が混じっていることを言います。すなわち、尿潜血とは尿の中にヘモグロビンがあるかどうかを検査しています。ヘモグロビンは赤血球に含まれ、酸素を運ぶタンパクなので、尿潜血とは尿中に赤血球があることを意味します。つまり、腎臓、尿管、膀胱、尿道のどこかで出血している可能性があります。

検査のはなし vol.11

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること ①9

「尿潜血が陽性と 言われました」

日本臨床検査専門医会
下澤 達雄



2 尿潜血検査には偽陽性、偽陰性もある？

しかし、潜血検査は偽陽性、偽陰性もあるので注意が必要です。偽陽性で注意すべきは、筋肉が壊れるような激しい運動のあとでは、筋肉中のミオグロビンというヘモグロビンと似たタンパクを試験紙が誤って認識して、陽性と判定することがあります。また、脱水や、放置して細菌が増えてしまった尿のように、アルカリ性に傾いた尿で検査すると偽陽性になりますので、後述のように新鮮尿で検査する必要があります。一方、ビタミンCを大量にとると偽陰性になり、異常を見逃すことがあるので、尿潜血検査の経過を診ている場合は注意が必要です。

血尿が発見される頻度は年齢とともに増え、男性に比較して女性に多く見られます。腎臓学会の調査では、日本人では約500万人程度が陽性となると試算されています。そのうち悪性腫瘍は0.5%程度とされています。しかし、尿が赤いなど、尿に血が混じることを目で見て判断できる肉眼的血尿は、さらに重要な病気のサインです。

3 尿潜血が発見されたら

検診やドックで尿潜血が発見された場合には、症状はなくても、もう一度新鮮な尿を顕微鏡で観察し、精密な検査を行いましょう。あわせて尿の色、タンパクが含まれていないかなど、専門の検査技師がチェックします。また、尿を遠心分離（沈渣）して、赤血球のほかに血液成分の白血球はないか、出血させるような異物（尿路結石など）あるいは細菌感染がないかを再検査します。また、赤血球の形を見ることで、腎臓での出血なのか（糸球体型赤血球）あるいは腎臓以外での出血なのかを判断します。さらに、必要であれば血液検査に加え、超音波やCT、膀胱鏡検査で腎臓、膀胱、前立腺などの形を調べます。

子どもの場合、悪性腫瘍はまれなので、学校健診で潜血陽性の場合、結石や腎盂腎炎、膀胱炎がないか、痛み、発熱にまず注意をします。しかし、タンパク尿を合併している場合には腎炎の可能性もあるので、尿沈渣による赤血球形態の検査と、血液検査を受けることをおすすめします。

